

第 11 回選定委員会議事概要（書面開催）

1 日 時：平成 23 年 3 月 23 日（水）から平成 23 年 3 月 28 日（月）

2 場 所：e-mail による書面による報告

3 出席者： 書面による報告を行った委員

[委 員] 坂田誠（委員長）、佐々木聡、松下正、鈴木謙爾、勝部幸輝、
栗原和枝、高原淳、合志陽一、藤井保彦、片桐元、尾形潔、
中川敦史、南波秀樹

（以上、敬称略）

4 配布資料：

資料選 11-1：第 10 回選定委員会議事概要（案）

資料選 11-2：2011A 期の利用研究課題審査結果について

資料選 11-3：原子力機構ビームライン（BL11XU・14B1・22XU・23SU）の中間評価の審査結果について

資料選 11-4：第 26 回利用期（2010B）における特定放射光施設のうち研究者等の共用に供する部分の利用実績について

資料選 11-5：SPring-8 における成果公開の促進に向けて

-選定委員会の提言を反映した課題申請から成果登録までの流れ-

資料選 11-6：選定委員会の位置づけと基本的考え方の変更について

資料選 11-7：放射光共用施設の利用研究課題選定に関する基本的考え方（新旧対照表）

資料選 11-8：放射光専用施設の設置計画の選定に関する基本的考え方（新旧対照表）

資料選 11-9：選定委員会運営規程（新旧対照表）

5 議 事：

1) 前回議事概要については委員より一部修正意見を反映して承認された。

2) 報告事項

(1) 2011B の利用研究課題審査結果について

事務局より資料選 11-2 のとおり報告があった。

(2) 原子力機構ビームライン（BL11XU・14B1・22XU・23SU）の中間評価の審査結果について

事務局より資料選 11-3 のとおり報告があった。

(3) 第26回利用期（2011A）における特定放射光施設のうち研究者等の共用に供する部分の利用実績について。

事務局より資料選 11-4 のとおり報告があった。

3) 説明事項

(1) 成果公開の促進に関する選定委員会からの提言の運用について

事務局より資料選 11-5 のとおり、選定委員会の提言を反映した課題申請から成果登録までの流れの説明があった。

質問：提言に対する反響はどのようなものがあったのでしょうか。提言によって成果公開が増える傾向が見え始めたのでしょうか。

回答：選定委員会の提言を受け、今回説明した内容を、SPring-8 利用者懇談会の総会等で説明をおこないました。その時の反応では、概ね理解はされたようでありますが、SPring-8 レポート（仮称）の内容については議論がありました。この中で今後、SPring-8 成果審査委員会で詳細を決めていく SPring-8 レポートのことや制度上の

問題点などは、運用が始まってみないと判らないこともあり、問題点が見えたところでその都度、改善していくと、受け答えをしている。この提言により成果公開が増えるかについては、まだ運用開始前なので判らないが、この制度により、特に学術研究の分野で査読付き論文等の成果が増加していくことを期待している。また、これまで登録漏れなどにより把握できていなかった論文数などの実績がつかめるようになるのは確実であると思われる。

意見：先ずはこれでスタートしてユーザーの反応を見て、鈍ければさらに次の手を考えるのでしょうが、基本は「ユーザーが無料で大型施設を使え、成果も自分のものでそれをどのようにしようとも勝手だ」と勘違いしている点にあります。この意識の変革をすることが重要で、このためには施設側が主導せざるを得ません。

意見：本件は大型施設における極めて多数のユーザーの意識変革を必要とする事柄で、難しい側面があると思います。今回、施設側が具体的な方策を取ることで、ユーザーの意識変革が進むことを期待していますが、初めてのことで、臨機応変な舵取りが必要になると思います。この件に関しては、JASRI に新たに設置された「SPring-8 成果審査委員会」において、取り扱われることになっております。順調に立ち上がることを期待しています。

(2) 平成 23 年度の選定委員会の位置づけと選定業務に係る基本的考え方等の変更について

事務局より資料選 11-6 から資料選 11-9 のとおり、選定委員会の位置づけの変更と選定業務に係る基本的考え方の変更の説明があった。

意見：「選定委員会」は、その位置付けが明確になったと思います。同じ法律（共用法）の下で、複数の特定先端大型研究施設の運用が始まりますので、各登録機関の選定委員会の位置付けと機能が統一されるものと思います。しかしこの際、設置目的の「課題選定の審議」と「大所高所からのご意見」を 1 回の委員会で行うには、2 時間ではとても無理なので（それがそもそも現行の審査委員会と選定委員会の機能分けとなったと理解）、議事の進行の工夫が必要となります。一番単純には、開催時間を 3～4 時間とすることかも知れません。

意見：この件に関しては、SPring-8 のこれまでの経験を生かしながら、どのような体制にすることが、最大の成果を生み、かつ円滑な運営となるのか、鋭意検討中と理解しています。

意見：選定委員会の活動が形骸化しないように、役割に応じて体制を変更してゆくことが望ましいと思います。

意見：色々な面でクリティカルな状況を迎えつつありますので、選定委員会のかじ取りはますます重要になると思います。

意見：先月 2 月 7 日に告示された文科大臣の「特定放射光施設の共用の促進に関する基本的な方針」（基本方針）は、以前より大きく改正されていると理解しています。この改正された基本方針に沿った JASRI の活動方針は、新年度最初の選定委員会で紹介されるものと思っていますが、この基本方針は設置者である理研も直接含むものなので、両機関の足並みをそろえた運営を期待しています。

意見：JASRI の活動方針は、新年度最初の選定委員会で紹介されると思いますが、その際に、改正された基本方針に沿うと言うことだけでなく、日本の浮沈が取りざたされる現下の厳しい状況下で、西日本に存在することにより今回の巨大災害を免れた大型施設として、重大な責務を果たすメッセージが発せられることを期待しています。

以上